

ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part II

Japanese Studies

---

---

**J.12 MODERN JAPANESE TEXTS 3**

*Candidates should answer **one** question from section A and **two** questions from section B.*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Answer Book.*

**STATIONERY REQUIREMENTS**

*20 Page Answer Book x 1  
Rough Work Pad*

**SPECIAL REQUIREMENTS**

*The dictionary Shinjigen will be  
available for use*

**You may not start to read the questions  
printed on the subsequent pages of this  
question paper until instructed that you may  
do so by the Invigilator.**

SECTION A

Translate ONE of the following passages taken from unseen texts into English: [40 marks]

1 (translate only the main text, not the headlines on the right)

「氷は溶けるときがもっとも危ない」これは、ゴルバチョフ大統領(当時)の下でベレストロイカを進めるソ連を評して、マーガレット・サッチャーが語った言葉です。金正日の死は、ある意味ではこのサッチャーの言葉を私に想起させます。全体主義国家のアキレス腱は、権力継承です。北朝鮮は今、まさに独裁体制のもっとも「脆弱な環」に入ろうとしています。

金正日の死は、日本および世界にいかなる影響を及ぼすのか。考えるべきポイントは、三つあります。第一に金正日体制の遺産として、何が残されたのか。またそれが後継者である三男の正恩に継承されたことほどいう意味を持つのか。第二に「金正恩政権」の課題は何で、この体制はいつまで持つのか。第三に、欧米の衰退、中国の躍進、「アラブの春」の明暗、ソーシヤル・ネットワークの普及という世界同時多発危機の文脈の中で起こった金正日の死を、地政学的にどう位置づけるか。

この三角測量によって結ばれる「像」を検討したとき、そこに二〇一二年の我々が直面する世界の姿が見えるはずだ。まず第一のポイント、金正日は何を遺したのか。一言でいえば、彼は破綻国家へと至るレールを敷きました。その最大の失政は九〇年代の飢餓で、北朝鮮国内に百万人をこえる餓死者を出してしまったこと。この一点において、彼は国家指導者としては失格だし、父である金日成から引き継いだ

question 1 continued...

「正統性」を、大きく損なったといえます。

九四年夏に金日成が死去して、金正日が後継者となり、十月に「米朝枠組み合意」が結ばれて、それまで進めていた核開発をもうやらない、ということになった。その後、喪に服すと称して、北朝鮮は世界に背を向けて、国際舞台から消えてしまう。その間、何をやっていったかという点、合意を破って、濃縮ウランの開発に走り、一方で国民を飢え死にさせていたわけです。

「核」もまた、金正日が遺した大きな遺産です。北朝鮮以外のほとんどの国から見れば負の遺産ですが、金正日死後の北朝鮮国内の報道をみると、核を保有したことにより、「百戦百勝」の軍隊を持つに至ったと、「先軍政治」実現の上での偉大な成果として語られています。一方で、核を物神化したことで、グローバリゼーションの渦中で孤立し、この国は埋没していき

FUNABASHI YŌICHI, 'Kim Jong-un taisei to 2012 sekai no gekihen', *Bungei shunjū*, February 2012, pp. 148-9.

金正日	Kim Jong-il
継承	succession
衰退	decline
破綻	failed
飢餓	starvation
金日成	Kim Il-sung
喪に服する	go into mourning
濃縮ウラン	highly-enriched uranium

(TURN OVER)

むかし、女がいた。もの心つく頃から、わけもなく腹立たしいことがあって、どうしてか  
しらとよく考えてみると女に生まれてしまったからだと思うことがあるようになった。いつ  
の頃からか、そういう感じを書きとめておく癖がつき、気がつく作家になっていた。

ごく自然にそうなったのだが、そして当然のことながら女の書いたものは女の書いたもの  
だということで、フェミニズムの運動家たちが女の書いた作品についていろいろと論ずるよ  
うになった。丁度その頃、世界中の女たちが口ぐちに自分たちがどんなに不当に扱われて来  
たかということについて喚き始め、フェミニズムと称する社会運動があつという間にひろが  
ったのだった。全てのは絡み合つてゆっくりと動いているのだろう。

しかし女には自分自身に目的を持った運動家としての意識があるわけではなかった。生き  
ているうちにどうしてもそう思うことを書きとめ、発表する機会が与えられたので発表した  
までだった。何も言わないで生きていくくらいなら、死んだほうがましだ、というより、生  
きるということは、それが危険だとわかっていても言ってしまうことに違いない、と女はい  
つの頃からか思うようになったのだ。

ごく若い頃、女は何となく世間一般の人の言うままに当時としてはそれがごく普通のやり  
方だった結婚というものをして、夫なる男にこう言われたことがあつた。

「思っていることを口に出して言えると思っているのか。それで、この世を生きていけると  
思ったら大間違いだ」

それはとくべつ夫婦喧嘩というほどの華やかなものではなく、何げなくつい心にあること  
を女が口にしたときの夫の反応だった。夫の口調もまた何げなく、おだやかで、聞き過そ  
うと思えば聞き過せるほどのものであつたのだが、その言葉は深く女の心に突きささつて生涯  
決して抜けることのない刺となった。

その後何十年かにわたつて女はこの言葉を何百回となく鮮やかに血しぶきのとびちる激し  
さで思い浮かべ、その度に、

question 2 continued...

「わたしはいつ何どき、この男と別れるようなことになつたとしても不思議ではない。そのときまでに、わたしは、思っていることを口に出して生きてゆけるようになってみせる」と自分に言いかけた。男はべつこのときには子供をかかえている女に、「一人で食べられもしないくせに」とも言ったものだった。

もしかしたら男の言った言葉は、男が女に向つて言った言葉というよりは、男自身に言いかけせる呟きのようなものであつたかもしれないのだが、女にとっては男の不甲斐なさが空を覆う大きな白鳥のように気味悪く映し出されるものだった。

ŌBA MINAKO, *Mukashi onna ga ita* (1994), pp. 147-9.

癖	くせ
喚く	わめく
夫婦喧嘩	quarrel between husband and wife
聞き過ごす	push aside, ignore
刺	a thorn
しぶき	splash, spray
呟き	murmur, muttering
不甲斐なさ	cowardice, weakness of character

(TURN OVER)

## SECTION B

Translate TWO of the following passages taken from seen texts into English:  
[30 marks each]

3

尖閣問題が荒れている。

九月一六日、共同通信は次のように報じた。

「日本政府による沖縄県・尖閣諸島（中国名・釣魚島）国有化に抗議する中国の反日デモは一五日、北京や上海、重慶、江蘇省南京、同省蘇州、湖南省長沙など少なくとも五七都市に拡大し、計八万人以上が参加。各地で暴徒化した一部デモ隊による日系店舗襲撃が相次ぎ…（中略）…大きな被害が出た。

小泉純一郎首相（当時）の靖国神社参拝などに抗議した

二〇〇五年の反日デモを、一日当たりの参加者数や発生都市数で上回り、一九七二年の日中国交正常化以来、『中国

で起きた最大の反日デモ』（北京の外交筋）となった」

さらに洋上では九月一四日午前、中国国家海洋局所属の海洋監視船「海監」六隻が尖閣諸島周辺の日本の領海内に相次いで侵入する動きが見られた。大規模な漁船群が、尖閣諸島周辺に近く集結するとも言われている。

これら最近の事件の発端は、石原慎太郎東京都知事の行動にある。石原都知事は二〇一二年四月一六日、米国での講演で、尖閣諸島を都予算で買い取る方向で交渉が進んでいることを明らかにし、その後、国民に購入への寄付を呼びかけた。この呼びかけが奏功し、東京都は六月一日、寄付金が一〇億円を突破したと発表した。石原知事は尖閣諸島を購入後、港

question 3 continued...

湾の施設の建設等を実施することを合わせて表明している。  
 こうした行動をうけ、政府は九月一日閣議で、「沖縄  
 県・尖閣諸島を国有化するため、購入費用として二〇二二年  
 度予算の予備費から二〇億五〇〇〇万円を拠出する」ことを  
 決定した。これに対し中国側が激しく反発しているのは、す  
 でに記述の通りである。  
 事態は、さらに緊迫したものに発展する危険性を内包して  
 いる。

### 尖閣に「領土問題はない」のか？

これら一連の動きをどうみたら良いか。

尖閣諸島問題の最大のポイントは、①尖閣諸島は日本固有  
 の領土であり領土問題はない。従って日本は自己の領有権を  
 更に強固なものにするために、肅々と国内法を適用するとい  
 う立場を取るか、②尖閣諸島を日中間の係争地と認識し、こ  
 の地を基点としての紛争を避ける道を探るか——のいずれを  
 とるかにある。筆者の結論は後者である。

日本の領土問題には、日本が第二次大戦で敗れた戦後処理  
 の問題が深く関与している。

日本は一九四五年八月一日、米國、英國、ソ連、中国に  
 対し「天皇陛下ニオカレテハ、ポツダム宣言ノ各項受諾ニ  
 関スル詔書ヲ發布セラレタリ」との通告を関連在外公館に発  
 出した。ポツダム宣言受諾が戦後日本の出発点である。

かつ一九四五年九月二日の降伏文書には、「ポツダム宣言ノ  
 各項ヲ誠実ニ履行スル」と記されている。

このポツダム宣言は第八項において、「カイロ宣言ノ各項  
 ハ履行セラルヘク又日本國ノ主権ハ本州、北海道、九州及四  
 國並ニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限セラルヘシ」となってい  
 る。

ここに言及されているカイロ宣言では「満洲、台湾及澎湖  
 島ノ如キ日本國カ清國人ヨリ強取シタル一切ノ地域ヲ中華民  
 國ニ返還スルコト (all the territories Japan has stolen from the Chinese,  
 such as Manchuria, Formosa, and the Pescadores, shall be restored to the Republic  
 of China)」とある。

もうこうなったら見張っていて犯人を捕えるしかないと思った。昨日の朝、私は目覚まし時計を六時にかけておき、目がさめるとすぐに服を着て外へ出た。六時なのに冬のように暗くて電灯をつけなければならなかった。外へ出ると雨が降っていた。雨の日にも花がおいてあったらどうか。花がおいてあったのはいつからだだったろう。その間ずっと晴れだったかどうか。とにかく、そのつもりで起きたのだから見張ることにした。外へ出たら少し寒かったので、また家の中に戻って長袖のシャツを出した。ついでに思いついて木の丸椅子を持ってきた。カドには、まだ花はおいてなかった。傘をさし、椅子に腰かけて待った。初めのうちは、ときたま自動車を通るだけだった。七時近くになってぼつぼつ通勤者の姿が増えてきた。足早に前だけ見て通り過ぎる人もいれば、不審そうにじつくりと私を眺めていく中年女もいる。誰も花なんか持っていない。

七時半。バイクが目の前で止ったので傘をあげると安西さんだった。そんな所で何をして

いるんですか、と聞かれたので、しかたなく花のことを話した。

「そんなの、子供のいたずらに決まってるじゃないですか。それとも、おばさんのファンかな。花をもらって怒るなんて、おかしいよ」

安西さんの話し方は丁寧になったり、急にぞんざいになったりする。

「でも、私はいやなのよ。止めてほしいの、もう、こんなこと」

「そんなにキリキリすることないと思うけどなあ。別に実害があるわけじゃないんだし。第一、なんて言うつもりなんです、そいつをみついたら。毎日お花有難うと言うしかないでしょうが。それに、そんなとこにずっといたら風邪引くよ」



question 4 continued...

わかつたわ、もう家に入るわ、そんなことよりあなたこそ早く行かないと会社に遅刻するわよ、と私は彼をせかした。彼にそこへ立っていられると迷惑だった。この間にも犯人が逃げてしまいかも知れないではないか。

安西さんがうちの前を通って通勤しているとは知らなかった。引越したのだろうか。方角違いのはずだが。子供のいたずらだなんて。私もそうかど思ったこともあつたが、子供は朝は忙しいのだ。そんなことをするわけがない。私は彼の言葉を一々思い出して腹を立てた。花をもらうといっても、通りすがりのよその庭のをむしってきたような花なのだ。そんなものをもらって嬉しい人がいるだろうか。安西さんは、とうに行つてしまったのに私はまだ口の中でぶつぶつ言いながら怒った。雨は小降りになり、空が明るくなつてきた。私は尿意をこらえながら、なお坐り続けていた。バス通学の高校生たちが傘のかけからちらちらと私を見て行く。朝から賑やかな小学生たち。

本当にどうするのだろうか、犯人をみついたら。安西さんがあんなことを言わなければ私は怒鳴りつけただろう。どうしてそんなことをするんですか、私に何か恨みでもあるんですか、警察へ訴えてやるから、とまくしたてただろう。考えてみれば他人の家の門口へ花をおくのは別に犯罪ではないのだ。たしかに彼の言うように実害はないのだし。

世の中には危険が多い。僕達の周囲は十重二十重に危険が取り巻き、僕達を窺っている。僕達は絶えず降って来る危険性の波飛沫を一つ一つ自己判断で避けながら生きている。少人に転嫁する場合が多く、最近そうした風潮が増々盛んである。

例えば、道路に穴が開いていて、その中に落ちて脚を折ったとする。自分が不注意だから穴に落ちたに拘らず、道路の方が悪い、道路を管理している自治体が、若しくは国が悪いと考える。飛行機が墜ちる。煉瓦が頭の上に降って来る。凡そ万有引力の法則を考える迄も無く、物体は落下する方が当然で、落下しない方が不思議なのである。ところがこういう事故が起きて、飛行機会社が悪い、工事会社が悪い、国の監督が悪いになってしまう。ハイジャックにしても、わざわざハイジャックが起こりそうな航空会社の、然も最もハイジャックの起きそうな南廻りの路線に乗る事を選んだ自己責任を忘れて、一旦事が起これば、国の救援策がどうのこうのと、責任は国にあるが如き態度丸出しである。これでは国も地方自治体も堪ったものでは無い。

question 5 continued...

ついでこの間、毒の魚が出廻っているとかで、騒ぎがあった。二百俵規制問題以来、今迄陸揚げされなかつた魚が市場に顔を見せるようになり、その中に、南方海域の、毒のある笛鯛の種類が混じっているというのである。この件にしても、店頭に並んでいるからと言って、その魚が何という魚か、何處から来たものか、どういう性質の魚か、はた又毒であるか無いかを考えもせず、調べもせずに買う人の無知が当然化されていて、それが気に入らない。巨大な商業主義、營利主義の歯車の廻転によって成り立っている僕達の周囲では、店頭に並んでいるものなどには、毒物も、危険物も、沢山あるのだと思う方が良い。飛行機が墜ちもせず、工場で煉瓦が落ちて来る事も絶対に無く、道路に穴が開いている事も絶対に無く、店頭に並んでいる食物は総べて安全なのだ、日本の国を信じるのは勝手だが、信じたが故に竹筒返しを受ける事が自明なそんなユートピア思想は、僕は持たないし、もっと周囲への警戒心を中心とした自己責任を持った人間になり度いと思う。そうする事だけが、責任を他に転嫁して、他人の迷惑を惹起する事無しに、然も最も安全に日々を過ごす方法だと思ふからである。

DAN IKUMA, 'Kikensei', in *Paipu no kemuri. Kasanete* (1982), pp. 123-5.

END OF PAPER